

## Ⅱ. 主要電設資材

### 1. 電線・ケーブルの需要動向

日本電線工業会の調査による平成28年度（2016）の銅電線出荷量は、内需66.3万トン（対前年度比2.1%減）、輸出1.7万トン（対前年度比23.3%減）、内外需合計で68.0万トン（対前年度比2.7%減）となった。内需は通信、電力、電気機械、建設・電販部門で対前年度比減となり、内需合計では3年連続で前年度を下回った。輸出部門も2年連続で対前年度比減となり、内外需合計は2年連続で70万トンを下回り、10年前の平成18年度（2006）と比較すると20%以上出荷銅量は減少している。

次に、平成28年度（2016）のLME銅相場を四半期毎にまとめると、第1四半期（4～6月）は4月に5,000ドルを超える日もあったが、ドル高と中国景気の減速懸念が続き、4,500～4,800ドル台の比較的狭いレンジでの推移となった。6月23日、英国国民投票による英国のEU離脱決定で銅相場は一旦下落したが、影響は限定的だった。第2四半期（7～9月）は20万トン台で推移していた銅在庫が8月下旬より増加し、9月末には30万トン台後半となったが、銅相場は変わらず4,500～4,900ドル台と狭いレンジ

での推移が続いた。第3四半期（10～12月）10月の銅相場は4,600～4,800ドル台とより狭いレンジでの推移となったが、11月の米国大統領選でトランプ氏が勝利したことを受け、米国景気への期待感が高まる中、中国金属需要見通しの改善もあり、6,000ドルの大台を超える展開となった。12月は上値の重い展開が続いていたが、ドル高に銅在庫の急増も加わり、月末には5,400ドル台まで下落し、年末最終は5,501ドルとなった。第4四半期（1～3月）平成29年（2017）の年明けはチリ・エスコンディエダ鉱山でのストライキやインドネシア・グラスベルグ鉱山での銅精鉱輸出禁止による供給懸念から銅相場は5,800ドル台まで上昇した。その後もエスコンディエダ鉱山のストライキが開始される中、中国輸出入の堅調さも相場の支援材料となり、2月には6,204ドルと平成27年（2015）5月以来の高値をつけた。3月はドル高、LME銅在庫の増加、中国の2月銅輸入量の減少などから、一時は5,600ドル台まで下落したが、ペルーのセロ・ベルデ鉱山のストライキ開始や中国景気の堅調さから連騰し、5,900ドル台まで上昇した。その後はインドネシア、チリ、ペルーなどでの供給不安が解消されたことで上値は重くなり、3月末には5,860ドルとなった。銅相場の先行きとしては、さまざまな地政学リス

第4表 平成29年度（2017）部門別電線需要見通し

（単位：1,000トン、%）

部門	平成23年度 (実績)	平成24年度 (実績)	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	対前年度比 27/28	平成29年度			対前年度比 27/28
								上期 (見通し)	下期 (見通し)	通期 (見通し)	
通信	15.8	14.0	13.5	12.5	11.3	11.1	(%) ▲ 1.8	5.0	5.0	10.0	(%) ▲ 9.9
電力	(13.7) 61.4	(15.2) 58.6	(17.0) 55.4	(18.1) 56.3	(19.2) 59.6	(19.6) 54.6	(2.1) ▲ 8.4	(10.0) 26.0	(10.0) 29.0	(20.0) 55.0	0.7
電気機械	(2.3) 164.9	(2.0) 158.8	(2.1) 160.4	(2.0) 160.1	(3.6) 149.7	(4.9) 149.5	(36.1) ▲ 0.1	76.0	77.0	153.0	2.3
自動車	71.1	73.5	75.7	72.2	70.2	74.5	(0.8) (0.9) 6.1	38.0	36.0	74.0	▲ 0.7
建設・電販	(0.6) 296.9	(0.6) 308.3	(0.6) 338.4	(0.3) 340.1	(0.3) 338.1	(0.3) 320.9	(0.0) ▲ 5.1	156.0	170.0	326.0	1.6
その他内需	(0.7) 56.6	(1.1) 57.9	(1.2) 54.0	(1.2) 51.3	(0.9) 48.5	(0.7) 52.7	(▲22.2) 8.7	(3.0) 28.0	(4.0) 28.0	(7.0) 56.0	6.3
内需計	(17.2) 666.6	(19.0) 671.2	(20.8) 697.4	(21.6) 692.4	(24.8) 677.3	(26.4) 663.4	(6.5) ▲ 2.1	(13.0) 329.0	(14.0) 345.0	(27.0) 674.0	1.6
輸出	(6.2) 18.8	(1.8) 16.0	(2.3) 20.1	(2.3) 31.2	(1.3) 21.9	(1.9) 16.8	(46.2) ▲23.3	(1.0) 10.0	(1.0) 8.0	(2.0) 18.0	7.1
合計	(23.5) 685.4	(20.8) 687.2	(23.2) 717.5	(23.9) 723.5	(26.0) 699.2	(28.4) 680.2	(9.2) ▲ 2.7	(14.0) 339.0	(15.0) 353.0	(29.0) 692.0	1.7

注) 1. ( )内はアルミ電線を示し外数。

2. 四捨五入のため、計と合わない場合もある。

(一社)日本電線工業会調べ